

引佐北部小学校活動報告

○単元 6年生 「Hi friends 2 Lesson 4 “Turn right.” 道案内をしよう」(全6時間)

○実践内容

1 時間目

○絵を見て日本と外国の街の様子を比べ、興味をもたせたり、何の建物なのかを予想させる。

2 時間目

○施設を表す単語を練習する。

・ミッシングゲーム ・ステレオゲーム など

児童の反応や気付き

- ・バスやパトカーの色が違う。
- ・建物の名前が始めの文字以外も大文字になっている。
- ・“fire” が書いてあるから火に関係ある場所だろう。など

児童の反応や気付き

- ・左や右が速く判断できた。
- ・“l” と “r” の発音に気を付けた。
- ・クラスメートの案内を聞いて、正確に目的地に着けた。

3、4 時間目

○道案内に使う “Turn left/ right.” や “Go straight” “It’s on your ~.” の表現に慣れ親しむ。

- ・“symon says” ゲーム
- ・ブラインドゲーム
- ・インフォメーションギャップを使った地図作りゲーム など

相手の意図をくみ取りながら

5、6 時間目

○相手がしたいことから、クラスメートやALTが行きたい場所を推測して、案内する。

<会話例>

A: I want to buy a new comic.

B: OK. Book store!

A: Yes. That’s right.

Go straight and turn right.

It’s on your left.

A: Thank you.

児童の反応や気付き

- ・ALTの言葉の全部は聞き取れなかったけれど、“flower” のような、知っている単語を聞いて “flower shop” に案内した。
- ・クラスメートやALTがどこに行きたいのか予想することができた。
- ・英語でもスムーズに案内できて嬉しかった。

成果と課題

インフォメーションギャップをつくることで、絵や知っている単語を頼りに、相手が伝えようとするのを聞き取ろうとする態度が見られた。また、1度で分からなかった場合は聞き返したり、ヒントになるような言葉を相手が推測できるまで付け加えたりして(例えば convenience store に行きたい場合 “I want to buy a magazine.” で通じなければ “rice ball” “drink” “obento (お弁当)” など)、ダイアログ以外の言葉も発言して会話を成立させようとしていた。相手の話を理解しようとする態度は、コミュニケーションの上でも大切な要素であると考え、今後も大切にしていきたい姿であった。

一方、子供たちは正確に案内することに必死で、アイコンタクトがおろそかになっている児童もいた。単元に関わらず、アイコンタクトや “I see.” “Well...” といった相づちや会話の合間に入る表現も大切に指導し、より自然でコミュニケーションがとれるように授業改善をしていきたい。